

地域連携センター Newsletter

ごあいさつ

新型コロナウイルス感染症禍における地域貢献の模索

地域連携センター長 行田 智子

4月より地域連携センター長になりました行田智子です。本センターは10年目を迎えました。これも皆様のセンター事業へのご理解とご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。

現在、センターでは10事業を展開しております。昨年度からのコロナ禍の中、事業の展開方法を模索しながら取り組んでおります。「看護師特定行為研修課程」と「看護学教員養成課程」の2事業は感染対策を行いながら、学内にて対面授業や演習等を実施しております。また、県民向けの公開講座や専門職を対象とした研修会等はWebを活用し、多くの皆様にご参加頂けるようにいたしました。今後もセンターの役割を果たすように取り組んで参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



活動紹介

全国屈指！ 群馬県のワクチン接種の加速に貢献しました



5月の試験運用から9月末まで、本学看護学部教員、大学院生等、延べ215名が、東毛・県央県営ワクチン接種センターにて、問診及び接種後の健康観察業務に従事しました。県内の医師・歯科医師・薬剤師・臨床検査技師・事務担当者など多職種の皆さんと力を合わせ、9月末現在で全国トップクラスとなる6割を超える県民の接種完了に貢献いたしました。接種会場では、本学の卒業生や他大学の先生方、実習でお世話になっている病院の皆さまと一緒に業務にあたり、親交を深めることもできました。

これからも様々な形で県民の皆さまの安全・安心に向けて貢献して参ります！



【山本一太 群馬県知事が初来学 両学部学生と意見交換をしました】

6月30日、本学の設置者である群馬県の山本一太知事が初めて本学を視察しました。

今回の視察は、4月に新しく学長に就任した柏倉学長が、新任のご挨拶とあわせ、本学が2年連続して国家試験（看護師、保健師及び診療放射線技師）の合格率100%を達成したことを山本知事にご報告したことをきっかけに実現したものです。

当日は、本学の診療放射線関係の施設や看護技術学の実習の様子を視察していただいたのち、看護、診療放射線両学部あわせて10人の学生と意見交換を行いました。

学生との意見交換では、山本知事は学生の話に熱心に耳を傾けていただくとともに、県の新型コロナウイルス対策のほか、これからの学生に求められることや県民幸福度の向上などについて、学生に熱く語っていただき、学生も知事のお話に大いに刺激を受けた様子でした。



【診療放射線技師継続教育等事業 MRI技術講習会を開催しました】

診療放射線学部 准教授 高橋哲彦

9月18日(土)に、「MRI技術講習会」をWEBで開催しました。この会は、診療放射線技師の継続教育として実習形式で毎年開催してきましたが、昨年はコロナ禍の影響で中止となり、今回は2年ぶり、企画を講義形式としました。対象は、これからMRIを専門的に扱おうという若手技師を主とし、内容を、基調講演と事例報告の4演題としました。

当日は、病院に勤務する診療放射線技師を主として県内外から66名の参加を得、参加者からは、「基礎から応用まで幅広く学べた」と好評でした。今後も、県内の診療放射線技師のスキルアップを支援してまいります。



講師 八杉幸浩氏 茂木俊一氏

【看護学部学生による人命救助活動のご報告】

去る2月に、アルバイト中の本学看護学部学生2名が倒れているお客さんに心臓マッサージやAEDを実施するなど、人命救助活動を行いました。大学内で学生による報告会を開催し、救助活動の様子や消防署長さんからの礼状、無事回復された方のご家族様からの礼状が披露されました。日頃の学習成果を活用し、勇気を持って人命救助にあたった学生からの報告を、教職員一同、嬉しく、誇らしく聴き入りました。

写真:(左から)看護学部4年生 石原康輝さん、出羽澤開さん
「人命救助に貢献できた経験と自信を胸に、これからも頑張ります！」

